



子どもの声に耳を傾けてください



「仕事がうまくいかなかった」「上司から叱られた」「通勤で疲れた」等々、現代社会は本当にストレスが多く大変です。その気分をなかなか切り替えられずに、家に帰ってからも機嫌が悪く、甘えてくる子どもについて辛く当たっていることはありませんか。

子どもはお父さん、お母さんに学校で「習ったこと」「起きたこと」「考えたこと」等を話しかけてきます。その言葉は、「ぼくの話聞いて」という心の声です。親は子どもの話を聞き、「そうなの」「そんなことがあったの」「明日からは気をつけようね」等、返してやるのが大切です。そのことで、子どもは自分の気持ちを整理したり、確認したりします。聞いてもらうことにより、親を信頼し、笑顔を取り戻し、翌日も元気に学校に登校できるのです。

中高生になると自然と親に話をするということは少なくなりますが、小さいときから子どもの声に耳を傾けている家庭では、子ども自身が聞いてもらえることの喜びを知っているため、小さいときほどではなくても話をします。そのような家庭環境であれば、思春期の反抗がなかったり、少なく抑えられたりするのではないかと思います。

ここで、子どもの声に耳を傾けることの大切さについて考えさせられる言葉を紹介しましょう。

「子どもの話に耳を傾けよう」 デニス・ウェイトリー

きょう、少し

あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

さもないと、いつか子どもは あなたの話を聞かなくなる。

子どもの悩みや、要求を聞いてあげよう。

どんな些細な勝利の話も、どんなささやかな行いもほめて

おしゃべりを我慢して聞き、一緒に大笑いをしてあげよう。

子どもに何があったのか、何を求めているのかを見つけてあげよう。

そして、言ってあげよう、愛していると。毎晩、毎晩。

叱ったあとは必ず抱きしめてやり、「大丈夫」だと言ってやろう。

子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、

そうやってほしくないような人間になってしまう。

だが、同じ家族の一員なのが誇らしいと言ってやれば、

子どもは自分が成功者だと思って育つ。

きょう、少し

子どもが言おうとしていることに 耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

そうすれば、子どももあなたの話を聞きに戻ってくるだろう。

今日から子どもの声に耳を傾け、子どもとの会話を楽しみませんか。子どものかわいい笑顔が見られますよ。必ず・・・。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）